る。ただし、１チャネルで二の通信を同時に行う場合は、当該測定値に 12dB を加えた値から次の値を減じて nW 単位で記載する。

⑴　上側隣接チャネル漏えい電力比　10log（P_C／P_U）

⑵　下側隣接チャネル漏えい電力比　10log（P_C／P_L）

６　その他

⑴　４の搬送波周波数は、割当周波数とする。

⑵　スペクトル分析器のダイナミックレンジが不足する場合は、搬送波と隣接チャネル漏えい電力の相対測定において基準レベルを変更して測定することができる。

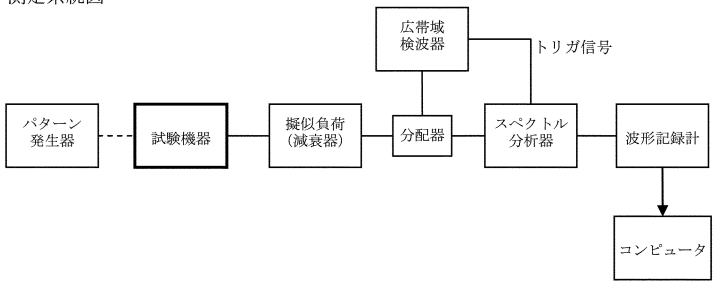
⑶　１チャネルで二の通信を同時に行う場合の測定であって、空中線電力のバースト内の平均電力が１チャネルで一の通信を行う場合と変わらない場合は、当該測定を省略することができる。この場合は、５において１チャネルで一の通信を行う場合の空中線電力を用いることとする。

⑷　１チャネルで二の通信を同時に行うことができる無線設備の場合であっても、１フレーム（５ms）内で１スロット（625μs）送信状態にて測定した空中線電力を用いる場合は、５において、七の項で測定した空中線電力の測定値からの補正は９dB を加えた値とする。

九　搬送波を送信していないときの電力

１　スペクトル分析器のゼロスパン法による測定

⑴　測定系統図



⑵　測定器の設定

ア　スペクトル分析器を次のように設定する。

中心周波数	ＴＤＭＡ方式狭帯域デジタルコードレス電話の無線局の場合は1,899.8MHz、ＰＨＳの無線局の場合は1,902.05MHz
掃引周波数幅	ＴＤＭＡ方式狭帯域デジタルコードレス電話の無線局の場合は12.6MHz、ＰＨＳの無線局の場合は35.1MHz
分解能帯域幅	100kHz
ビデオ帯域幅	分解能帯域幅と同程度
Ｙ軸スケール	10dB／Div
データ点数	400 点以上
掃引時間	１サンプル当たり１バーストが入ること
掃引モード	単掃引
検波モード	ポジティブピーク

イ　搬送波の電力測定時及び搬送波を送信していないときの電力測定時のスペクトル分析器及び波形記録計を次のように設定する。

中心周波数	搬送波周波数、隣接チャネルの周波数（±300kHz、±600kHz 及び±900kHz）及び探索された漏えい電力が最も大きい周波数
掃引周波数幅	０Hz
分解能帯域幅	300kHz（占有周波数帯幅が 288kHz を超える場合は１MHz）
ビデオ帯域幅	３MHz
Ｙ軸スケール	10dB／Div
入力レベル	搬送波の電力測定時は、ミキサの直線領域の最大付近とし、搬送波を送信していないときの電力測定時は、ミキサを焼損しない範囲でアッテネータを小さくし、基準レベルを－30dBm 程度とする。
波形取り込み時間	１チャネルで一の通信を行う場合は５ms、１チャネルで二の通信を同時に行う場合は 10ms
データ点数	400 点以上
掃引トリガ	外部トリガ
掃引モード	単掃引
検波モード	サンプル

⑶　試験機器の状態

試験周波数に設定し、強制送信制御の動作モードで標準符号化試験信号により変調して送信する。

⑷　測定操作手順

ア　スペクトル分析器の設定を⑵アとし、搬送波周波数及び設備規則第 49 条６の２に規定する周波数帯域内で漏えい電力が最も大きい周波数を測定する。

イ　スペクトル分析器及び波形記録計の設定を⑵イとする。

ウ　スペクトル分析器の入力レベルを搬送波の電力測定時の設定とし、中心周波数を搬送波周波数に設定して単掃引し、データ点の値をコンピュータの配列変数に取り込む。

エ　取り込んだデータのdB値を電力次元の真数に変換し、搬送波のバースト内の平均電力を算出してこれを搬送波電力P_{ON}とする。

オ　スペクトル分析器の入力レベルを、搬送波を送信していないときの電力測定時の設定とし、中心周波数を搬送波周波数、隣接チャネルの周波数及びアで探索された漏えい電力が最も大きい周波数に順次設定して単掃引を繰り返す。

カ　オで測定した周波数ごとに、エと同様に取り込んだデータ点について電力次元の真数に変換し、測定値を算出する。この場合は、搬送波を送信していない区間を１タイムスロット区間（625μs）ごとに分割して平均値を算出し、それらのうち最も大きな値を搬送波を送信していないときの電力P_{OFF}とする（１タイムスロットのみ送信する場合であって、１チャネルで一の通信を行う場合は搬送波を送信していない区間を７区間に分割し、１チャネルで二の通信を同時に行う場合は搬送波を送信していない区間を 15 区間に分割する。）。

⑸　試験結果の記載方法

七の項で測定した空中線電力の測定値に９dBを加えた値から 10log（P_{ON}／P_{OFF}）を減じてnW単位で記載する。ただし、１チャネルで二の通信を同時に行う場合は、当該測定値に 12dBを加えた値から 10log（P_{ON}／P_{OFF}）を減じてnW単位で記載する。

⑹　その他

ア　当該測定方法では、スペクトル分析器の記録容量を超えるデータを扱う場合があるので、その場合は波形記録計及びコンピュータが必要であるが、波形取り込み時間を625μs以上とし、ディレートリガをかけてその時間を625μsにＮ（Ｎ＝１から７まで。ただし、１チャネ